

前沢明峰支援学校 第1回学校評議委員会 評議員による質疑・提言（抜粋）

実施日：令和元年6月12日（水） 会場：前沢明峰支援学校

1 提言

(1) A 評議員

Q：教職員の数に比べて、職員室が狭いことに驚いている。どのような理由か。

A：児童生徒数が増加したことにより、教職員の数も増加したためである。全国的に子どもの数は減っているが、特別支援学校の児童生徒数は増加している。

感想：今年度開催される明峰支援センター一部主催の「送迎サービス事業所との連絡会」は、ここ数年願っていたものである。ありがたい。

(2) B 評議員

Q：「働き方改革」の一環として「多忙解消」を考えることは大切。退庁時刻の管理はどのように行っているか。

A：タイムカードで管理している。朝の出勤時刻が計上されるようになったため、総勤務時間数は増加した。特別支援学校では、年度始め(3,4,5月)は本当に忙しい。経験上、これ以後は減っていくと予測している。

感想：学校の中で、職員と児童生徒の相互理解は非常に大切である。明峰はよい雰囲気であるように見える。今年度実施している「茶論デー※」も、よい取り組みだと思う。

※「茶菓子を持ち寄って、情報交換をしたりフランクに話したりしましょう」といった取組を行う日

(3) C 評議員

提言：児童生徒が増えているとの話題があったが、「先生方は十分に休めているのか」と心配している。常に誰かが休みを取れるような仕組みを作ってほしい。

提言：気温が高くなることで、熱中症リスクが高くなる。屋外で実施される体育でも、水分補給できるようにすればよいのではないか。

(4) D 評議員

提言：明峰の卒業生が弊社で勤務している。体の使い方が上手く、重い荷物を持てる体力がある。労働環境が変化している中で、これからは外国人労働者と就労のニーズが重なることが想定される。また、製造業では「怪我をしない体」や「力の強さ」も求められてくると考える。明峰でも体づくりを。(明峰の体力づくりを紹介)